

汎発性インフルエンザはなぜ、いまの私たちに重要なのか？

- 歴史を見ると、汎発性インフルエンザは再発している。いつ、つぎの汎発性インフルエンザが発生するかは誰にも予知できない。それはすぐに起きるかもしれないし、何年も先のこともかもしれないが、それは必ず起きるだろう。
- 2003年以来、異常な数の鳥が鳥インフルエンザ(H5N1)に侵され、その死亡率は非常に高い。このウイルスは他の動物ばかりでなく、数は少ないが人間にも感染している。これらのひとひとのほとんどは、感染した鳥に密接な接触を持っている。そして感染したひとひとの半数が命を落とした。科学者たちはこのウイルス、あるいは他の鳥ウイルスが人間に適應するのではないかと心配している。
- 流感性の菌は絶え間なく変化している。ひとひとがまだ免疫を持っていない種類の菌が人口中に蔓延すると、適切な対応が施されない限りウイルスは迅速に拡大する。何百万人というひとひとが感染する可能性が生まれる。



咳やくしゃみが出たときにはティッシュペーパーで口や鼻をふさぐことによって、細菌の蔓延を防ぐことができる。

汎発性の流行病に備えるには、自分はどうすればよいのか？

いまずべき準備リストが PandemicFlu.gov のサイトに掲載されている。

- 少なくとも2週間分の水と食料を常備すること。これは他の非常事態に備える際にも有用なことからである。
- 処方薬でもそれ以外の常用薬、その他の医療用品も、つねに余分に備えておくこと。
- 家族用緊急健康情報シートを準備する。(PandemicFlu.govのサイトを見ること。)

つねに情報を逃さぬように

- 鳥インフルエンザに関するマスコミのニュースに注意する。
- 自身または家族が罹病した際には、自分の所属命令系統への報告を忘れぬよう。
- 地元の医療機関のウェブサイト調べて地域の情報を知っておくこと。
- つぎのインターネット・サイトに行けばより多くの情報が得られる。
 - ▶ 米政府による汎発性インフルエンザのウェブサイトは <http://www.PandemicFlu.gov>
 - ▶ 米国疾病対策予防センターの鳥インフルエンザに関するサイトは <http://www.cdc.gov/flu/avian/>
 - ▶ 世界保健機構の鳥インフルエンザサイト http://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/en/index.html
 - ▶ 伝染病に関するリサーチと方針立案センターの最新ニュースは <http://www.cidrap.umn.edu/index.html>
 - ▶ 国防省における汎発性インフルエンザの警告板は <https://fhpp.osd.mil/aiWatchboard/index.html>



USACHPPM
Readiness thru Health

<http://usachppm.apgea.army.mil>

Japanese

TA-051-0906

兵役者とその家族に対する汎発性インフルエンザファクトシート



「未知の脅威に備えて」

汎発性(パンデミックの)インフルエンザに関する事実

インフルエンザとは？

インフルエンザ(または流行性感冒)は伝染性のウイルスによって触発され、おもに呼吸器系統を侵す。それに対する反応は軽度なものが大部分だが、ひとにより重大な疾患を引き起こすことがある。特定のインフルエンザ・ウイルスにすでに侵されたことのある大部分のひとひと、あるいは予防注射を受けたひととは、そのウイルス菌に対して免疫を持つようになる。

汎発性インフルエンザとは？

汎発性インフルエンザ、あるいは大規模な流行性感冒とは地球全体におよぶその集団発生を指し、人口の多くがそれに侵される。流感の世界的な拡大は、多くの人々が免疫性を持っていないウイルスが蔓延しはじめて、ひとからひとへ容易に広がってゆくときに起こる。これが起きる典型的な条件として、動物に感染していたものが人間の体内に適合したとき、また何年も潜行していたウイルスがふたたび蔓延を始めたとき、あるいはいくつかのウイルスがそれぞれの特色を互いに交換しあった結果、新型のより危険なウイルスになったときがあげられる。

20世紀におきた汎発性疾患

- ▶ **スペインかぜ：1918-1919年**
全世界で5000万人が死亡、その多くは感染して数日のうちに命を落としている。これら犠牲者の半分はまだ若くて健康な成人者で、兵役に従事するひとひとでも少なくなかった。米国だけでも675,000人が亡くなっている。この汎発的な疾患により100から200万人が死亡、米国でも7万人が犠牲となった。
- ▶ **アジアかぜ：1957-1958年**
この汎発的な疾患により100から200万人が死亡、米国でも7万人が犠牲となった。
- ▶ **香港かぜ：1968-1969年**
世界中でおおよそ70万人が死亡、うち米国内の犠牲者は34,000人を数えた。



大流行が発生した場合、どんな状況を予測すべきだろうか？

- 科学者たちは汎発性インフルエンザへの対策を講じてはいるが、いざそれが起きたときにも、最初から適切な量のワクチンを供給できる可能性は少ないだろう。たとえその汎発性インフルエンザ菌を見極めたとしても、ワクチンの開発と生産には数ヶ月がかかろう。
- 抗ウイルス剤が十分に出回ることは期待できないであろうし、かつまたそれが、はたしてそのウイルスに対して効果を発揮するか否かは不明である。またその抗ウイルス剤が最初は効果があったとしても、ウイルスがそれに対する抵抗を高め、いずれ無効になるであろう。
- 医療に対する要求が非常に高くなる。世界保健機構は世界人口の20%から50%がその汎発性インフルエンザの影響をこうむると見ている。しかしながら医療保健関係者の数が減り、寝台の数、換気装置その他の必要物資が供給不足になることが考えられる。
- 汎発性の流行病にさらされた地域社会では、それがおさまるまでに6から10週間かかる。さらに別の汎発性流行病の波が続けて襲うことが考えられる。
- 多数のひとびとがこの病気に倒れる。あなたにとっても就業は不可能になるであろう。事業所、学校、政府機関にも閉鎖が起き得る。集会や旅行は取り消される。さらには食料や飲料水の不足も生じよう。



手を頻繁に、特に咳やくしゃみのあとで洗うことによって罹病を防ぎ、インフルエンザの蔓延を防止することが出来る。

季節性の流感	汎発性インフルエンザ
• ウイルスに小さな変化。	• ウイルスに大きな変化がおきた(鳥から人間に飛躍するなど)。
• 冬ごとに勃発。	• 発生はまれで、また季節を問わない。
• ひとびとはふつう、以前それにさらされて免疫を開発している。	• 以前にかかったことがないので、免疫を持たない。
• 侵されやすい年齢層は若いひとびと、および高齢者である。	• 年齢層を問わない。
• 症状:発熱、頭痛、倦怠感、空咳、筋肉痛。	• 症状はより重く、また他の病気を併発することが多い。
• 米国内では毎年36,000の犠牲者があつた。	• 死亡率が非常に高い。
• ワクチンは開発されている。	• 汎発し蔓延しても、6-9ヶ月はワクチンが開発できない場合がある。
• 抗ウイルス剤は通常、入手できる。	• 抗ウイルス剤の不足が生ずることもある。
• 医療機関は通常、公共と患者にサービスできる施設や方法をもっている。	• 医療機関が対応しきれない場合もある。
• 多少の社会的影響(学校閉鎖、罹患したひとびとは家にとどまるよう注意されるなど)。	• 甚大な社会的影響を及ぼす。通常の社会機能に支障が生まれる可能性がある。
• 国内、国際経済に影響をもたらすが、それは手に負えないほどではない。	• 国内、国際経済に大きな影響が起きる可能性がある。

病気の蔓延している地域に旅行する場合はどうすればよいのか？

鳥インフルエンザが人間に感染する例は非常に稀だが、旅行者はそれなりにつぎのような心構えが必要である。

- 生の鳥肉、養鶏場、鶏肉を売っているマーケットとの直接の接触は極力避けること。
- 鶏の糞を避けること。
- 鳥から来る全ての食物、つまり卵や鳥の血は完全に火を通すこと。
- 万一罹病した際には米国領事館の職員に連絡してもよりの医療機関を尋ね、また家族や友人に連絡してもらう。
- 帰国後10日間は自分の健康状態によく注意していること。罹病したならば旅行先の医師に相談すること。

どんな対策を講ずればよいのか？

- 養鶏場は生物安全対策を講じて人間がH5N1型鳥インフルエンザにさらされないよう措置をとり、かつ感染した鳥は即座に始末する。
- 政府のさまざまな部門と国防省はワクチン、抗ウイルス性薬剤、抗生物質、また個人用の防御装備を貯蔵中である。
- ラボラトリー職員は、大流行をもたらすウイルスに対するテストのトレーニングを受けている。
- 科学者は汎発性インフルエンザのウイルスに対抗できるような、新型ワクチンの開発を急いでいる。いくつかのワクチンに対するテストはすでに開始している。
- 鳥インフルエンザを世界的規模で探知できるシステムが強化されている。
- 国境を越え、また全国的な、あるいは州、地方政府機関は地域社会、事業所、学校、医療施設や個人との意思疎通をはかり、大流行に対応できるさまざまな計画を開発している。このような計画の開発に役立つチェックリストを入手したい場合はPandemicFlu.govのサイトを訪れるとよい。

流行性感冒にかからないよう、あるいはその蔓延を防ぐためには自分は何をすればよいのか？

- 自分がこれにかかったならば家にとどまり、ひととの接触を避けること。症状は流感風の症状(発熱、頭痛、倦怠感)から目の感染、肺炎や強度の呼吸器系疾病まで、さまざまな範囲に及んでいる。
- すでにかかっているひとびとからは遠ざかっていること。
- ばい菌の蔓延を阻止するためには、つぎのことからを実施する。
 - ▶ 咳やくしゃみをするときはティッシュペーパーで口や鼻を覆う
 - ▶ ティッシュペーパーを持っていないときは、咳、くしゃみは袖の上腕に向けてすること。手に向かってしてはならない。
 - ▶ 使ったティッシュペーパーはくずかごにするように。
- 手洗いを頻繁に行い、咳やくしゃみをした後は特にこれをおこなうように。
 - ▶ 手洗いは石鹸と水で、またはアルコールをもとにしたハンドクリーナーで行う。
- 自分の目、鼻、口にはできるだけ触れないようにする。
- 喫煙と喫煙による煙は避けるように。
- 季節ごとの流感予防接種を受けること。感染度合いが特に高いグループは、細菌性肺炎の予防接種も受けるべきである。このような予防接種が汎発性インフルエンザによる感染をすべて防ぐわけではないが、これらを受けておけば他の病気の併発リスクを低くしてくれる。
- マスクをするよう医療関係者から命令されたならば、それに従う。あなた自身がかかっていなくても、罹病しているひとびとに常時接している場合には、使い捨ての手術用マスク着用を考えること。マスクは4時間ごと、あるいは湿ったり、汚れたならばすぐ取り替えなさい。マスクを取り外したあとは手を洗うこと。
- 使い捨てマスクを着用するよう言われたならば、指示された使い方に従って着用する。
 - ▶ マスクの紐あるいはバンドは頭と首のまんなかになじり結わえ付ける。
 - ▶ 伸縮性のバンドが鼻梁にかかるように着用する。
 - ▶ 顔から顎の下をすんなりと覆うように着用する。